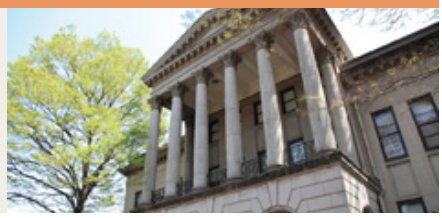
TEI 鼎談 DAN
学問と職業のカンケイから、大学進学を考える本

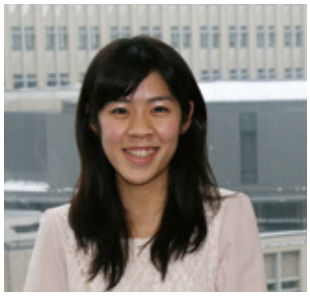
青山学院大学 文学部 英米文学科

文学部では文学・語学・歴史・芸術などに対する教養を高め、“人間の営みと文化の本質”やグローバル社会のあり方を考えます。「英語の青山」を代表する英米文学科では、自らの英語力を磨き、幅広い分野で活躍できるように独自の専門教育を展開しています。



■大学生
小林大地さん

■先生
アレン玉井光江先生



■卒業生
土橋（つちはし）美紀さん

CONTENTS

●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス

●プロフィール

皆さん、簡単に自己紹介をお願いします。

■大学生

英米文学科の４年生です。三重県出身で中高の英語教員を目指していましたが、東京都での教員採用が決定し2015年度から都内の高校に赴任する予定です。趣味は映画やテレビを見ることです。在学中での印象に残る体験は、合計80分の英語ビデオを日本語訳するボランティア体験をしたことです。オーストラリア人の啓蒙講演家のニック・ブイチチという方がいて、彼は生まれた時から手足に障害を抱えているのですが、世界中でスピーチ活動をしているんですね。今回世界35ヶ国向けにビデオを作るプロジェクトがあり、日本語版の製作に当たり知人の紹介で奇跡的に

私が彼の講演ビデオを翻訳する事になったんです。最初は私で良いのかとも思いましたが頑張りました。就職先の学校の英語の授業で、教材として使えたらと自負しています。

■卒業生
私は父の仕事の関係でアメリカに長く暮らし、アメリカの高校を卒業した帰国子女です。3年前に英米文学科を卒業し、社会人資格取得の学校を運営する企業に勤務。アレン先生からの影響もあり、在学中から将来は英語教育の現場の仕事に就きたいと考えていました。しかし、私はアメリカ生活が長く日本の文化に触れてこなかったので、まず日本人としての社会性や基礎力をきちんと身につけ成長してから目標に近づいていきたいと思い、企業に就職しました。この3年間で色々と学ばせていただいたことがあり、品川区の小学校の英語教員に採用となり、夢に向かって転職することになりました。

■先生
私の経歴としては児童英語教育が長いですね。成人になるまで広島で学びアメリカの姉妹校に留学したり、その後も日米の大学や大学院、研究室を行き来して学んできました。
その間に TESL（英語教授法／ Teaching English as a Second Language）を学びましたし、1991年前後から本格的に腰を据えて児童英語教育を研究しています。サバティカルでハーバード大学の教育大学院 Graduate School of Education のキャサリン・スノー先生のもとで研究させていただいたのが貴重な体験でした。スノー先生の第二言語取得の研究で有名なのは、若いから言語取得が早いという訳ではないと提唱した論文です。一般的には臨界期仮説にしたがって第二言語習得は早いほうが良いとする考え方に異論を唱えたものです。

先生の研究内容について教えてください。

■先生
英語教育の中でも、現在特に注目を浴びている児童英語教育、小学校英語教育を専門にしています。私は 34 年間にわたり大学で教鞭を執ると同時に、3歳から 12 歳の子ども達に英語を教えてきました。現在もある小学校で児童に英語を教えていますが、私の研究とリンクさせてゼミ学生も、毎年夏休みにはその小学校で英語を教える英語教育プログラム（SEP/ サマー・イングリッシュ・プログラム）で実習体験を行っています。

そのプログラムの特徴は何ですか？

■先生
国立大学や地方の教育系の大学は教員養成機関としての役割を持っていて、地域の小学校と提携などを行っていると思います。そのようなプログラム同様に、学生は実習を行いますが、実習する3日間は最初から最後まで完全に学生達に任せ、プログラムを完結させます。小学校の担任の先生から毎日フィードバックをしてもらいますし、しっかり管理や評価はしますが、実際の教育現場での体験を通して、教室での子ども達や担任の先生からも多くを学ばせてもらっていると思います。SEP を楽しみにゼミに入ってくる学生も多いんですよ。

英米文学科の特色をお教えください。

■先生

10年前の改革時に導入された１、２年次の必修科目である『IE（Integrated English）プログラム』が最大の特徴でしょうか。読み、書き、聴く、話す、と言う４技能を統合的に教えることに加え、英語を使って考えることを徹底的に行い英語の実践力をアップさせます。専任のネイティブ・スピーカーの先生が、能力別に授業を進めるのですが、２年次までに完全に英語のベースを作ります。そのうえで、3、４年次は６つのコースに分かれて学びを深めます。その効果はもちろん、多くの学生が満足しており成功していると言えますし、学科内では今後もさらに改善していく予定です。

■大学生

合格できないと進級できない必修科目で、大学での学びのキーとなる授業でした。レポートの課題も相当な量で随分鍛えられました！

■卒業生

日本の大学にあって､質も量も問われる英語の授業でしたので帰国子女の私もためになりました｡(笑)

他にどのような授業がありますか？

■大学生

記憶に残ったのは３年生の時に受講した「人生について考える」授業で､まさに衝撃的な体験でした。科目自体はネイティブ・スピーカーの先生による『スピーチ・コミュニケーション』と言う授業。英語でものを考え発言するという科目でしたが、授業内容は濃くて、進め方も厳しい。でも人間的に素晴らしい先生で『他人と同じ人生でなくていい』とか、『自分だけを考えるのではなく、自分以外の社会や世界に対して良い影響を与える人間になる』とか、先生の持つ価値感や考え方など、多くを考えさせられ、影響を受けました。こうした素晴らしい先生方と出会えるのもこの学科の素晴らしさだと思います。

■卒業生

必ず青学の全学生が「キリスト教概論」という授業を受けるのですが、興味深かったですね。私のためだけではなく、世の中で役に立つべき、と言う思想を教えられました。青山学院のスクール・モットー「地の塩、世の光」にもつながり、「世のため人のために仕える」ことの大切さを学びました。

英米文学科の学生の雰囲気はどうでしょうか？

■大学生

上京時、東京での生活などカルチャーショックが多々ありました。そのうえ、英米文学科には、帰国子女が多いことに、入学後ショックを受けました。自分の地元では海外留学が一般的でなかったのに、大学では日常的に英語も飛びかってて凄い！そういう状況の中で最初は全然英語ができなかったけれど、そこから頑張ろうという思いは強くありました。自然に同級生の友達とも英語で話し、楽しく学べたし、身近に英語が溢れている環境に感謝しています。

■卒業生
私は帰国子女生ですけど、最初は日本の集団行動に馴染めなくて苦労しました。入学したての頃は何も分らないし、まずは知り合った仲間で群れあうというのが多いのですが、ちょっとそれに馴染めなくて…。（笑）

■先生
一般的に帰国子女というと３年以上の海外生活をさしますが、英米文学科は１学年の約 270 人のうち、3 分の 1 程度が該当します。もっと短い海外生活者を含めれば、その割合はもっと高くなるでしょうね。

■大学生
青学のお洒落なイメージそのままの学生もいますし、私のように地方からの一般入学生も多い。在学生も多様性に富み、個性や自由を尊重する、それが一番の魅力だと思います。

ゼミやその他の学びについて教えてください。

■大学生
ゼミでの英語教育は主に小学校教育と中学・高校教育の２つに分かれています。私はもともと中高の教師を目指していたので３年次はそちらに特化したゼミに入り、４年次に初等英語教育に重点を置いたゼミに移りました。ゼミの変更は挑戦でしたが、違う角度で英語教育を学びたかったし、実際に比較対象ができて良かったですね。どちらのゼミ生もモチベーションが高く、良い刺激も受けました。そういう自由度があるのも青山学院大学の良さです。
先ほどアレン先生がおっしゃった初等英語教育のインターンシップの SEP に参加して、たくさんの子ども達に会いましたが、「子どもの可能性は凄い！」と実感しました。「教師がリミットをかけてはいけない！」「子ども達はできるんだ！」というのかな。それは、４年次に三重県の母校で行った教育実習でも感じましたね。年齢にかかわらず、子どもの可能性は無限大です。

■卒業生
私はやりたいことをやらせていただくことができたので満足しています。自分の専攻はもちろん、他学部や他学科の科目も取っていました。教育人間科学部の授業や、幼稚園や小学校の先生になるための授業…、そんな自由度があり私にはこの大学に入学できて良かったなと思いました。

■大学生
私はこの学科に入学して良かったと実感しています。知識とか学問だけを追究するのではなく、生き

て行くのに必要なこともたくさん学べた気がします。繰り返しになりますが素晴らしい先生方に出会えたし、良い経験をし、様々な考え方に接することができました。日々の学びを自分の中で昇華させることができました。

大学生に伝えたい学科のキーワードを教えてください。

■先生
学科のキーワードというよりも、私の専門分野である小学校英語におけるキーワードになりますが、「グローバル化」は当然ですがやはり「学びの追求」でしょうね。平成25年には文科省からグローバル化に対応した英語教育改革実施計画が出たくらいですが、やはり過去20年くらいの英語教育は、特に低年齢になるほど「楽しければ良い」というのが中心でした。それは楽しくて、英語嫌いを作らないというのが一つの柱だったのですね。とはいえ、英語教育は学校義務教育の一環としてあるのですから、「学びの場に挑戦していく」ことが大切だと思います。他教科と同じように、今まで知らなかったことを知る喜び、もっと知りたいと自ら学びを追求していく姿勢を教える必要がある。それで「学びの追求」をキーワードに授業を行っています。

子ども達に教えることの醍醐味は？

■先生
「ゾクッ！」とする瞬間があります。以前、小学校3年生の英語の授業で「大きな木（The Giving Tree）」というアメリカで長く親しまれている絵本を使って教えたことがありました。絵本のテーマは森林伐採が人間のエゴであるという深遠なテーマなのですが、現在も進む自然破壊について、「今の社会には登場人物のような人がいっぱいいるんだね」という子どもがいて。英語の一言一句を理解できなくても、絵本のメッセージや本質を感じ取ってしまうことができる！教えるこちらが驚かされることが多々ありますね。

●大学生活について

在学中の活動について教えてください。

■大学生
在学中は、毎日を何となく過ごすのではなく、何か自分でできることを行動に起こそうと思っていました。そこでまず、学内の喫煙所の掃除をしようと思いました。ちょうど、授業で環境問題を学んでいた頃だったんです。その後は渋谷駅までの道端での吸殻の多さ、ゴミの多さに目がいってしまって。これは、どうにかしなければだめだ、と思い、10数名の仲間を集めて渋谷駅や表参道駅から大学までの道路の掃除も行い、ポイ捨て禁止のポスターを作ったりしたんです。毎月一回程度で、半年近く続けました。ゴミの量は毎回かなり多いので驚きましたね。

■先生　■卒業生
凄い～！　行動的ですね！

■大学生
行動的になったのは、インスピレーションを与えてくれた素晴らしい先生が多かったから。世の中のためとか周りに良い影響を与える人間になりなさい、という倫理観を教えてくださった先生方に出会えたのは大きいですね。それはもしかしたら青学に受け継がれているキリスト教にもとづく建学の精神や校風かもしれません。

■先生
そうですね。さきほども土橋さんが触れていた青山学院のスクール・モットー「地の塩、世の光」が知らず知らずのうちに身についているのかもしれません。

■卒業生

私は学生時代、『青山子ども会』というクラブに入っていて、毎週土曜日に相模原キャンパス近くの児童施設で小学生と交流するボランティア団体に所属していました。その中で役職につき、下級生を教えたり、また年に 1 度 20 代～ 70 代という幅広い年齢層の OB・OG の方々と会える会では、さまざまな話を聞いたり、いろいろな経験ができました。夏休みには子ども達を連れてキャンプにも行っていたので、保護者の方から学ぶこともたくさんありました。

在学中に心掛けたこと、誇れるものはありますか？

■大学生
私は在学中の 4 年間を振り返って、勉強を一番頑張ったと胸を張れます。1 年生の頃は他の学生に比べて勉強ができなかったので、悔しくてほぼ毎日図書館通い。誰よりも図書館が大好きです。とりあえず夜まで図書館にいて、勉強をしなくても新聞を読んだりして頑張りました。（笑）

■先生
高校の時は大学受験で必死に勉強するけれど、小林さんは大学入学後にそれ以上に頑張りました。特に英語の発話に関しては、1 年生から比べると別人のように上達しましたね。周りには帰国子女も多く、入学当初英語力のギャップに悩んだと思うけれど、それでも頑張りたい、というモチベーションに変えて実行し続けたとても努力家の学生でした。

英米文学科を受験した理由を教えてください。

■大学生
私はこの学科が本命でした。兄と同じように東京の大学で勉強したかったことと、英語教育に興味が

あり、教職にも就きたかったたので大満足です。

■卒業生
私の場合はアメリカの高校に通っていた時から、日本の大学へ行きたいと思っていました。進路を考える時期に、英語力を生かせる学びは何だろうと探していました。そんな時青山学院大学のパンフレットで、英語教育のことを知り魅力を感じ、気付いたら願書を出していました。両親も、英語教育に伝統があり、評価も高い大学だからと応援してくれ、この大学に巡り会えて良かったと感謝しています。

●就職活動、仕事について

卒業生の方にどのような就職活動をなさったかをお伺いします。

■卒業生
私には日本での生活経験が少なかったので、業界を絞らず可能な限り間口を広げて企業説明会などに出席しました。ただし、「教育」、「子ども」という、自分が好きで関心のあるものに関連する企業を探していました。会社選びのポイントとして、様々な業種に携わる企業で、いろいろな仕事を経験できるチャンスがあることを重視しました。業務一つ一つが私の関心のある教育に関することで、人を助け、人のために役に立てる、そして自分を成長させることに繋がっているので自分の存在意義を感じることもできました。

他の卒業生の進路について教えてください。

■先生
非常に幅広いですね。大学院に進学する人もいますし、数年一般企業で働いた後に公立・私立の教員になる人もいます。その他、銀行、旅行会社、放送局、公務員など業種も多岐に渡っています。でもこれからは英語力を生かせる職種がもっと必要になることは確かです。就職後もこの学科で学んだことに自信を持って、自分の世界を広げていって欲しいと思います。

■大学生
私の友人は教育関連に就職する人が多いですね。

■卒業生
卒業して３年が過ぎ、そろそろ転職しキャリアップを狙っている友達もいます。旅行会社から英語の教材会社に転職したり、一度就職して教員になる人も結構います。

●５年後に向けて

自分の夢や未来像を教えてください。

■卒業生
小学校で英語を教えたいと思っていた夢を実現することができました。いずれは家庭を持ち、気軽に絵本を持ってきて子どもにたちに読み聞かせをしたり、ピアノを弾いたりするカフェのようなスペースを作りたいです。気の合う仲間たちと立ち上げられたら面白いだろうな。

■大学生
５年後というと、これから就職して職場でやりたいことができ始める頃ですね。英語を教える以上に、「先生に出会えて良かった」と生徒に思ってもらえるような、人間としても魅力溢れる先生になっていたいです。５年後は、何かに打ち込む情熱を持てる生徒を育てている自分でありたいですね。

■先生
丁寧に生きて生きたい。忙しくなればなるほど量をこなすのではなく、一つ一つを丁寧に。そこは現実的にはいつも常に戦いですね。より良い人間になりたいです。

●高校生へのアドバイス

受験勉強の工夫があれば教えてください。

■大学生
家ではテレビなどの誘惑が多いので、自分に負けないように工夫しました。集中するために塾や学校の自習室を使いましたね。また一人でモチベーションを保つのは難しい人は、友人やパートナーを見つけて二人で鼓舞し合いながら頑張るのはどうでしょうか？良い意味でのライバルになることも大切ですよ。

高校一年生に戻れるとしたら、何をしたいですか？

■大学生
今思うと高校の頃は地元しか知らなかったし、何も考えていなかった気がします。もし高校一年生に戻れるとしたら、海外留学をして、知らない世界を見ておきたいですね。私も大学生活で多くの刺激を受け、学ぶことの楽しさを知りました。学ぶことに早い、遅いはないと思いますが、もっと若い時

点で刺激を受けたら、その後の自分がどうなっていたかを見てみたい気がします。

高校生への進路選びのアドバイスは？

■卒業生
私の個人的な思いですが、今の高校生って親の意向で塾で勉強したり、進路選択をする人が多い気がします。自分が少しでもやりたいことがあるなら、勇気をもってどんどんチャレンジしてほしいですね。親の人生ではなく、自分の人生ですから。

■大学生
同感です。好きなことだったら眠くでもできる、忙しくても時間を割ける、これだったら誰にも負けない、そんな「夢中になれること」を、ぜひ探してほしい。自分の好きだと思えること、世の中に役立つことを一生懸命やり続けられる人生をつくる。その道につながる進路がチョイスできれば素晴らしいですね。

先生から高校生へのメッセージをお願いします。

■先生
これからの社会では、英語を使いこなせる人材は絶対的に必要とされます。そして、高校での英語の授業や皆さんがやっている受験勉強は、決して無駄にはなりません。というのも、英語はどんな人であれ、やればやるだけ伸びるものなのです。今の段階でコミュケーション力や英語力が足りないのは、まだまだ学ぶ時間が足らないだけで、皆さんにはこれから伸びていく力も時間も充分にあります。ですから、まずは今勉強していることを丁寧にやることで、将来の土台作りをしているのだということに価値を見出していただきたい。時には退屈に感じてしまうこともあるかも知れませんが、将来、必ず役に立つことなのでやり続けてください。そして大学に入ってからも、学び続けて欲しいですね。英語を使いこなすことができれば、自分の人生に大きな窓を一つ持ち、世界を広げることになります。途中で諦めないでください。

お勧めの本があれば教えてください。

■先生
私はファンタジーが大好きです。個人的に児童文学のアーシュラ・K・ル＝グウィンの『ゲド戦記(Earthsea)』がお勧めです。もともとは、12歳くらいからの子ども向けの本です。ファンタジーというのは子ども向けに描かれていますが、実はすべてかつての自分に向けて大人が書いていているもの。だから大人もとっても楽しめます。表現も豊かで読む力と想像力が身につきます。また、『指輪物語／The Lord of the Rings』や、『ライラの冒険』を含める3部作の『His Dark Materials』などもお勧めですね。

最後に先生からひと言お願いします。

■先生
土橋さんも、小林さんも、二人とも同じような事を伝えようとしていることに驚きました。『一人であっても寂しくない＝ Alone,but not lonely.』という言葉を、大学生活で実践していたんだと感じました。老子の言葉だったかと記憶していますが、青山学院大学の文学部長で、アメリカの文学研究では日本を代表する研究者、折島正司先生が文学部の紹介文でも引用されています。真のインテリジェンスとは、人と手をたずさえ、社会の中で役にたつことです。
グローバル化、IT 化と激変する社会状況の中を生き抜いていくときに、群れずに一人で立ちながらも、同じ意識を持つ仲間達と繋がっていける。英米文学科で、学びの中で人としての存在価値を認識していける力を養えるんだなと実感しました。

※内容は 2015 年 1 月当時のものです。

●インタビューに答えてくれた方々

■先生
アレン玉井光江先生

■卒業生
土橋（つちはし）美紀さん

■大学生
小林大地さん